

令和3年10月4日

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立錦岡小学校長 後藤 敏彦

令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年5月27日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年8月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも9月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行っておりません。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 検査の概要

(1) 実施日

令和3年5月27日（木）

(2) 調査対象

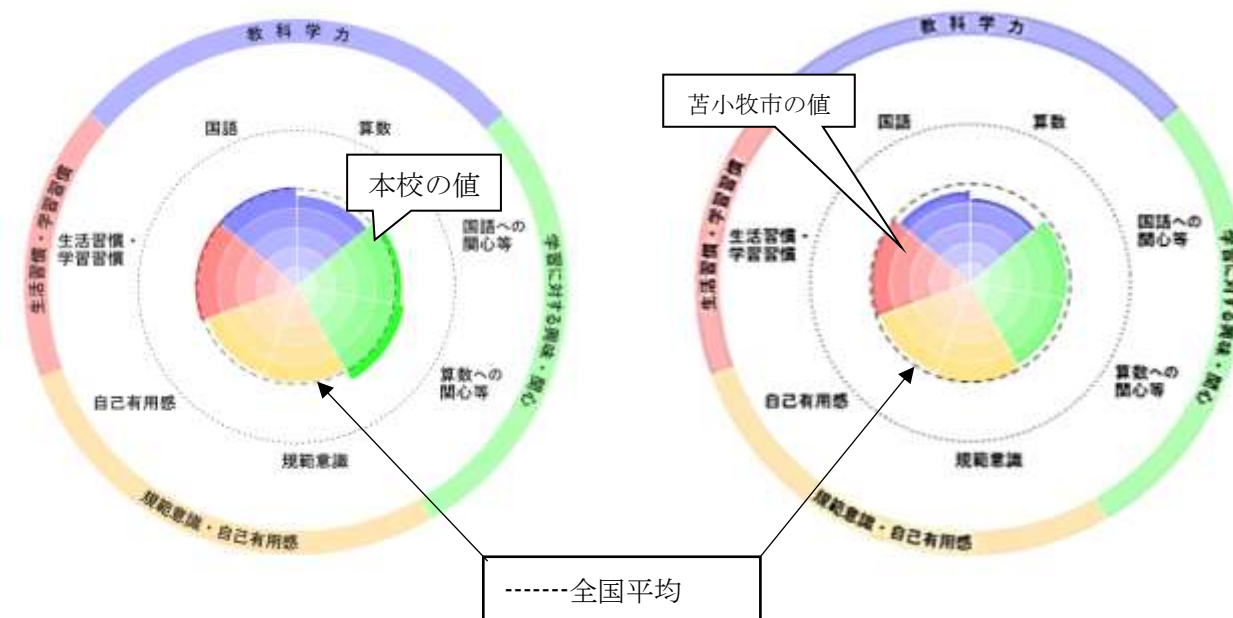
小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 検査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、算数の2教科が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

- ・国語においては、平均正答率が北海道平均を上回っており、全国平均まであと一步である。
- ・国語の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層が薄く、上位層、下位層が厚い傾向が見られる。
- ・「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の設問において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・「資料を用いた目的を理解する」の設問において、無回答率が0%、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・選択式の問題では、無回答率は0%である。
- ・「読むこと」の領域の「思考・判断・表現」を観る記述式の問題において、正答率が4割を下回っている。文章の記述式の問題では、正答の条件として求められるいくつかの事柄のうち、1つは満たしているが、あとのいくつかを書き漏らす誤答の傾向が見られる。

(3) 算数科

- ・算数においては、平均正答率は全国平均、北海道平均を下回っている。
- ・算数の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層・低位層が厚く、上位層が薄い傾向が見られる。
- ・「条件に合う時刻を求めることができる」「棒グラフから数量を読み取ることができる」の設問では、無回答率が0%、平均正答率は全国平均とほぼ同等である。
- ・選択式の問題では、無回答率は1%以下である。
- ・「数と計算」「図形」の領域で、「思考・判断・表現」を観る記述式の問題において、正答率が5割を下回っている。言葉や数を用いて説明する記述式の問題において、正答の条件として求められるいくつかの事柄のうち、1つは満たしているが、あとのいくつかを書き漏らす誤答の傾向が見られる。

(4) 児童質問紙

学校生活

- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた」と答えた児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「国語の勉強は好きだ」「国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。

家庭生活

- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「平日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに対し、「1時間以上」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」の問いに対し、「3時間以上」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「土日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに対し、「1時間以上」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っている。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童の割合は、全国平均を下回っている。

3 学校の今後の取組について

本検査の結果を踏まえた本校の成果○と課題▲

【成果】

- ・国語、算数どちらの教科においても、下学年から、「粘り強く最後まで取り組むこと」を継続して指導してきた成果として、意欲的に問題に取り組み、無回答率の低さに繋がっている。
- ・国語科では、基礎基本の徹底を行ってきたことから、漢字や言葉のきまりについての知識、スピーチ活動や発表の経験から「話す・聞く」の領域における知識・技能がしっかり身に付いているといえる。
- ・算数科では、国語科同様に基礎基本の徹底を行ってきたことから、計算力は身に付いており、選択したり短く答えたりする問題では、知識・技能がしっかりと身に付いているといえる。

【課題】

- ・国語・算数どちらの教科についても、「思考・判断・表現」の問題において、条件に合わせて自分の考えを根拠となる言葉や数を用いて、文章で表すことに課題が見られる。

◎今後の取組について

(1) 授業の指導工夫改善

- ・国語科において、「決められた字数でまとめる」「読み取ったことを要約する」「自分の考えを、理由を明確に述べる」などの『思考・判断・表現』についての指導工夫改善を図り、定着に向けて粘り強く取り組むよう、学習活動に意識的に取り入れる。
- ・算数科において、「児童自ら課題をもち、問題解決に向けて試行錯誤したり、練り合ったりしながら解決しようとする」などの『思考・判断・表現』についての指導工夫改善を図り、国語科同様、粘り強く取り組む学習活動を意識的に取り入れる。

(2) 基礎時・基本的な学力の定着を図る取組の推進

① 補充的な学習、学び直しの実施

- ・朝学習の時間、宿題・家庭学習、長期休業中の学習（課題プリント・ドリル）などの取組の充実

② 学習規律の徹底、基本的な学習態度の育成

- ・学習準備、学用品の約束、ノート指導などの取組の充実

③ 個に応じた指導の充実

- ・算数科の少人数指導・TT指導、通級指導教室、支援員の活用など複数教員による指導

(3) 家庭と学校の連携した取組の推進（学習・生活）

① 学習習慣の確立

- ・学習準備に関わる取組（忘れ物0、学習効果の高まる学用品・筆記用具の準備等）
- ・宿題・家庭学習の取組（家庭学習がんばり週間、「錦岡小学習ガイド」、長期休業中の学習等）

② 生活習慣の確立

- ・生活リズム習慣の取組（生活リズムチェックシートの活用）
とまこまい「学びの3か条」の取組

【①ゲーム・スマホ8時でセーブ、②3つの「習」（基礎学習・予習・復習）でレベルアップ、

③学年×10+10分でステージクリア】